

令和3年度 東京都立赤羽北桜高等学校 学校経営報告

校長 富川 麗子

自己評価の基準：【A】 十分達成できた	【B】 おおむね達成できた
【C】 あまり達成できなかった	【D】 まったく達成できなかった

(1) 教育活動の目標と方策	令和3年度の取組と自己評価
<p>【目標1】 多様性を尊重し、専門的知識・技術の習得に邁進する生徒の育成</p> <p>【方策】</p> <p>(1) 教育課程・学習指導</p> <p>①授業の充実</p> <p>ア 基礎・基本の定着、家庭及び福祉に関する将来のスペシャリストに必要な知識や技術を身に付ける（思考力・判断力・表現力の育成）。</p> <p>イ 希望する進路を実現するために、学力の育成及び学習習慣の定着を図る。</p> <p>ウ 資格取得や各種コンクールへの参加を促進する。</p> <p>②授業時間の確保・特別活動・道徳</p> <p>ア 授業時数の確保、年間指導計画に基づいた特別活動を行う。</p> <p>イ 体験的・実践的な活動を計画的に実施する。</p> <p>(2) 進路指導</p> <p>①生徒一人一人の進路実現に向けた支援体制の強化</p> <p>ア キャリア教育の全体計画に基づく系統的な指導を推進する。</p> <p>イ 担任等による個人面談・三者面談を計画的に実施する。</p> <p>ウ キャリアノートを活用した進路指導の充実を図る。</p>	<p>(1) -① 保育・栄養科については、上級学校への進学を視野に入れ、専門科目を3年間で「家庭総合（4単位）」を含めて26単位にする等、教育課程編成の工夫を行った。また、養成科目については、特別専門講師や市民講師を招聘し、より専門性の高い授業内容とした。</p> <p>①-ア 普通教科においては、数学、英語において習熟度別の授業を行い、基礎学力の定着を図った。また、専門科目においては、特別専門講師や市民講師を招聘し、より専門的な内容を学ぶ機会を設定。</p> <p>①-イ 手帳の活用について指導をし、学習習慣の定着を図った。</p> <p>①-ウ 家庭科技術検定（食物・保育）に全員が合格した。また、1年生ながらおにぎりコンテスト等2名が入賞。</p> <p>(1) -② 養成科目について、確実な授業時数確保を行った。</p> <p>②-ア 授業時数の確保に努めた。特に、養成施設については、夏季休業中においても授業を実施。年度途中から、考査後の年間計画を見直した。</p> <p>②-イ 介護福祉科では、11日間の施設実習を実施、施設実習報告会においてその成果を発表した。</p> <p>【自己評価 B】</p> <p>(2) -①-ア 開校一年目、キャリア教育全体計画の作成を行った。また、「総合的な探究の時間」において、連携先の大学の図書館館長、学生、教授からの講演を実施し、進路意識の高揚を図った。更に、実力診断テストの模試分析会を実施。</p> <p>①-イ クラスにより面談回数は異なるが、個人面談を実施。三者面談は実施できなかった。</p> <p>①-ウ キャリアノートを活用し、オープンキャンパスレポートやインターンシップでのインタビュー記録を実施。</p>

- ②進学に向けた補習・講習と進路行事の充実
 ア 放課後・長期休業中の講習を行う。
 イ 高大連携事業を計画的に推進する。
 ウ 大学生等の活用による学習支援を行う。
 エ 個別指導による繰り返し指導を行う。
 オ 自習室等を活用した自学自習を推進する。

(3) 生活指導

- ①基本的生活習慣の確立を図る。
 ア 挨拶、身だしなみ指導「時間を守る」態度を身に付けさせることを通して、社会生活の基礎と互いを尊重する心を養う。
 イ 交通ルールの遵守と自転車通学のマナーの向上を図る。
 ②生命を尊重した指導を徹底する。
 ア 生命尊重や交通安全指導等に関する外部指導者を講師として招聘し、講演会等を積極的に開催する。
 イ 担任・教科担当・保健相談部等、生徒と係わる全ての教職員が、きめ細かな生徒観察を行い、心の変化等を見逃さず、生命尊重の教育を推進する。

(4) 心身の健康づくり

- ①体力の促進
 ア 「体力テスト」の結果分析を踏まえ、生徒の体力向上を図る。
 イ 継続的な体力向上に向けての取組を遂行する。
 ウ 食と運動、体力に関する講演を行い、相互の関連性を理解させ、各自の生活習慣の改善を図る。
 ②交通事故の未然防止
 ア 交通安全に対する知識や実践力を身に付けさせ、交通事故等を未然に防ごうとする力を育成する。

- ②ーア 国語・英語・水泳において長期休業中に補習を実施。また、養成科目については、夏季休業中にも授業を実施。更に、放課後等に実技試験に向けての補習を実施。
 ②ーイ 高大連携協定校と連携事業を計画的に実施した。
 ②ーウ 「総合的な探究の時間」において大学生の講演の機会を得た。
 ②ーエ 考査前等適宜行った。
 ②ーオ 自習室の規定を作成し、定期考査前の活用を促した。

【自己評価 B】

(3) -①「生徒心得5カ条」に基づく生活指導の徹底を図った。

- ①ーア 生徒会及び有志による朝の挨拶運動を実施。
 ①ーイ 交通安全について警察との連携により講演会（セーフティ教室）を実施。
 ②ーア 4月のオリエンテーションにおいて講師による「生命に関する講演会」を実施。また、いじめアンケートを7・12・2月に実施。
 ②ーイ 担任とスクールカウンセラー、専門医派遣事業における精神科医と連携し、生徒の状況把握に努めた。また、生徒情報交換会を2回実施。更に、入学予定者説明会からグループエンカウンターを実施し、入学後も学期に一度実施し、人間関係の構築を図った。

【自己評価 B】

(4) -①ーア 「体育」では、感染防止策を図りながら、準備運動後に「体力テスト」の結果に基づく各自に必要な補強運動を毎時間3〜7分取入れ継続して実施。

- ①ーイ ゴールデンウイーク後、補強運動のステップアッププログラム（5段階）を実施し習慣化を図った。持久走においては、各自に目標走行距離を設定させ、記録することを徹底した。
 ①ーウ オリパラ教育「夢・未来プロジェクト」におけるオリンピックの講演及び模範演技から生活習慣の性についても理解を深めた。
 ②ーア 12月に赤羽警察署と連携して交通安全に関するセーフティ教室を実施し、生徒の交通安全への意識を高めた。

【自己評価 B】

<p>【目標2】地域から期待され、中学生、その保護者、教育関係者等から「選ばれる赤羽北桜高等学校」</p> <p>【方策】</p> <p>(6) 地域との交流・広報活動</p> <p>①応募者数の確実な確保</p> <p>ア 教育活動について積極的な情報発信を行う。</p> <p>イ 中学生や保護者の視点での学校説明会、体験入学等を実施する。</p> <p>ウ 中学校の教員、塾対象に専門高校の特色について発信する。</p> <p>②探究活動・地域連携の充実</p> <p>ア 地域の企業や自治体、他校種との連携を行う。</p> <p>イ 地域行事への参加及び「町おこし」に向けて、大学生とともにフィールドワークを実施する。</p> <p>ウ 多目的ホールの活用の充実を図り、地域と連携したイベントを推進する。</p> <p>【目標3】一期生から「赤羽北桜に来てよかった」、保護者から「赤羽北桜に入学させてよかった」と言ってもらえる教育実践。そして、社会に貢献できる人材の育成。</p> <p>【方策】</p> <p>(5) 専門高校の特色ある教育活動</p> <p>①スペシャリストの育成</p> <p>ア 資格取得の推進を行うとともに地域社会や生活産業、福祉産業に貢献する人材の育成を図る。</p> <p>イ 大学や地域と連携し、高度な授業の実現を図る。</p>	<p>本校を広く都民に周知し、多様な生徒募集対策を実施。コロナ禍で、参加者数を制限しての実施となった。</p> <p>(6) コロナ禍においても、インターンシップや施設実習の受け入れ協力を得て、地域と連携した取組を実施。</p> <p>①ーア Twitter やホームページで定期的な情報発信に努めた。</p> <p>①ーイ サマースクール等の体験授業を実施。動画による学校紹介、生徒による施設紹介動画等を作成。</p> <p>①ーウ 中学校教員対象、塾対象の説明会を実施。また、出前授業や中学校での進路講演会への参加に努めた。</p> <p>【自己評価 B】</p> <p>②ーア 十条銀座商店街と連携し、「十条銀座商店街マップ」を作成。また、放置自転車防止のチラシ及びアナウンスによる広報活動に参加。更に、自治会の防災会議等へ出席し、地域の防災訓練に参加。</p> <p>②ーイ 地域の防災訓練に参加。また、大学生と「オレンジリボン運動」におけるリボン・しおり作成を実施。</p> <p>③ーウ コロナ禍で実施に至らず。</p> <p>【自己評価 B】</p> <p>専門高校での学びに対する満足度は、入学当初のアンケートでは、入学したことを良かったととらえる生徒が75%、分からないが25%であった。3学期に実施の学校評価アンケートでは、学校生活全般について、生徒及び保護者の9割以上が肯定的に回答。</p> <p>(5) ー①ーア 保育・栄養科において、家庭科技術検定(食物・保育)に全員が合格。また、調理科においては、「赤羽北桜オリジナル実技試験」を実施し、Level 1～3に全員が合格。</p> <p>①ーイ 「総合的な探究の時間」での取組について、商店街の事務局長からの講演及び講評を得る機会や連携先の大学の教授から大学で学ぶ意義等について講義を受け、学問的探究意欲を喚起。</p> <p>【自己評価 A】</p>
<p>【学校経営・組織体制・経営企画室】</p> <p>①企画調整会議を軸とした学校経営</p> <p>②安全管理の推進を図る。</p> <p>③経営企画室の機能を強化する。</p>	<p>①分掌からの提案を企画調整会議で検討・協議して決定する。</p> <p>②修繕箇所の把握に努め、速やかな修繕計画や</p>

<p>④効率的な職務遂行、業務の平準化、在校時間・超過勤務管理を行う。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の対応と教職員の健康管理の徹底を図る。</p> <p>⑥事故防止・安全管理・コンプライアンス意識の徹底を図る。</p> <p>⑦生徒・保護者・その他都民に対する親切かつ丁寧な接遇を行う。</p> <p>⑧教員との緊密な連携による効果的かつ正確な事務を遂行し、募集対策・入学者選抜の運営及び支援を行う。</p>	<p>工事等を実施。</p> <p>③日常的に学校運営について意見交換をし、学校運営に対する経営企画室の参画を推進。</p> <p>④安全衛生委員会において時間外勤務状況の把握を実施。</p> <p>⑤感染予防を徹底し、臨時休業等行わず教育活動を止めることがなかった。</p> <p>⑥服務研修を実施し、服務事故「0」を実現。</p> <p>⑦電話対応、窓口対応等、接遇に留意。</p> <p>⑧予算編成・執行等、初度・自律予算ともに教員と企画室とで連携し有効活用を図った。</p> <p>【自己評価 B】</p>
<p>(2) 数値目標</p>	<p>令和3年度の取組と自己評価</p>
<p>1 授業改善</p> <p>(1) 授業研究(一人1回)、相互の授業参観(一人3回)</p> <p>(2) 生徒による授業評価(年2回以上実施)</p> <p>(3) 手帳の活用(年3回以上の確認)</p> <p>(4) 学習の仕方やノート作成の指導</p> <p>(5) 各種資格・検定合格者(生徒一人一つ以上)</p> <p>(6) 各種コンクール入賞(10件以上)</p> <p>(7) オンライン研修・校外研修(半数教員)</p>	<p>(1) 開校一年目で一人教科が多かったが、授業公開でのPC操作補助等で相互の授業を参観するなどの工夫をした。</p> <p>(2) 学校としての授業評価は実施できず。</p> <p>(3) 定期考査ごとに担任による確認を実施。</p> <p>(4) 入学時オリエンテーションにおいて、普通教科から学習についての講義を実施。</p> <p>(5) 保育・栄養科、調理科において全員が検定に合格。</p> <p>(6) 1年生ながら2名が入賞。</p> <p>(7) 悉皆研修を含め、半数以上が参加。</p> <p>【自己評価 B】</p>
<p>2 募集対策</p> <p>(1) 戦略会議の開催(月1回)</p> <p>(2) 分析会(月1回)</p> <p>(3) 学校HPの早期更新(新規更新100回以上)</p> <p>(4) 授業公開・体験授業の工夫</p> <p>(5) 学校説明会等の工夫</p> <p>(6) 広報誌(6回以上)</p> <p>(7) 学習内容、学習成果の校外への発信による専門高校魅力発信(2回)</p>	<p>(1)(2) 分掌構成が変わり、実施できず。</p> <p>(3) Twitterも含め、200回以上の更新。</p> <p>(4) 6回の授業公開及び各科の特徴を踏まえたサマースクールを実施。</p> <p>(5) 生徒会役員や執行委員の生徒代表あいさつや生徒による施設案内を導入。</p> <p>(6) 校長室だより12号、北桜高折々2号。</p> <p>(7) 7月に調理科で松花堂弁当試食会を実施。コロナ禍のため校内のみ。10月に介護福祉科が施設実習報告会を実施。オンラインで実習先も参加。</p> <p>【自己評価 B】</p>
<p>3 探究活動・地域連携</p> <p>(1) 協定締結校との打合せ(月1回)</p> <p>(2) 高大連携事業(6回以上)</p> <p>(3) 自治会との連携事業(6回以上)</p> <p>(4) 地域活性化のための提案プログラム(10件以上)</p> <p>(5) 多目的ホールでの地域と連携したイベント(6回以上)</p> <p>(6) 成果発表(全員)</p> <p>(7) 学校評価アンケート(連携先)</p>	<p>(1) 長期休業中を除き10回の定例会を実施。(9回はオンラインでの実施)</p> <p>(2) 5・7・9・10・11月に計8回実施。</p> <p>(3) 防災活動支援隊等、計6回実施。</p> <p>(4) 今年度は3件に留まった。</p> <p>(5) 今年度は実施できず。</p> <p>(6) 3月に学習成果発表会を実施。コロナ禍のため、校内のみで実施。ポスターセッションにおいて全員が発表。</p> <p>(7) 68件中46件から回答。</p> <p>【自己評価 B】</p>

(3) 次年度以降の課題	対応策
<p>【カリキュラム開発】 特に、学校設定科目について、本校の特色を打ち出す内容とし、専門的内容の充実を図る。</p> <p>【キャリア教育の充実】 一期生の進路実現に向けた具体的な指導及び進学先、就職先等の確保を図る。</p> <p>【募集活動の更なる充実】 新設校及び専門高校について更なる周知を図り、募集人員の確実な確保を図る。</p>	<p>① 高大連携締結校と連携し、授業計画・指導方法等のカリキュラム開発を行う。また、外部講師を招聘した授業の充実を図る。</p> <p>② 計画的な進路ガイダンスの実施及び指定校推薦の更なる確保を図る。また、保護者向けの進路ガイダンスを行う。</p> <p>③ 授業公開、体験授業等を積極的に実施し、中学生、保護者、中学校教員に対して専門高校の理解を深めてもらう機会とする。</p>